

奈良の企業活性化について

2018.10.19

奈良経済同友会

企業活性化委員会中間報告

奈良の問題点

①理科系の大学がない

→産官学の共同体制が取れず、新商品開発や新規事業起業のベースとなるものが弱い。

②奈良で育った企業が大きくなると県外へ移転

→県内に企業集団としての集積がなされない

③道路整備が不十分

奈良の問題点の背景

長い歴史の間に財の蓄積が進み豊かな状況
→危機感が乏しい

企業団体において現状打破のために新企画が
通りにくい
→新しい展開がスピード感を持って図れない

奈良の利点（長所）

- ▶ 大きな需要のある地域に隣接
- ▶ 大阪に比べ、土地の価格は比較的安く
また、住居も比較的安く手に入る

奈良の活性化について

①奈良の地の利や資産を生かした方策

- ▶ 「子育てに良し」
- ▶ 「高齢者への取り組み」
- ▶ 「野菜の供給体制の確立」
- ▶ 「神社仏閣や歴史的遺産」

奈良の活性化について

②奈良のブランディングの方向付け

奈良の統一感を持って商品開発や企業展開を図る

京都 「古都」「洗練されている」「雅」

奈良 「日本の故郷」「ゆったり」「素朴、飾らない」

京都とは異なった、京都の上をいくかつ日本人に共通する感覚を醸し出す方向付けが必要

奈良の古きよきものに新しいものを感じ、奈良らしさを追求

奈良の活性化について

③県内経済団体間ネットワークの構築と各業界団体の再構築

- ▶ 共通のプラットフォーム→情報の共有

- 県と市町村と経済界が一体となって地場発展に取り組む体制づくり

- ▶ 企業向けの補助金や助成金の情報がタイムリーに必要な会社に届く体制の確立

- ▶ 各業界団体の構成員の見直しも喫緊の課題である

同友会メンバーの会社活性化のために

- ① 企業人としての考え方、経営哲学を学び経営理念を確かなものとする
- ② 企業の大きな方向付けを見極めるため、常に大きな視点で物事を見る
- ③ ビジネスモデルの勉強→自社のビジネスモデルの変遷を知る、今後のあるべき自社のビジネスモデルを確立
- ④ マネジメント手法を学ぶ→自社に適したものを段階的に導入、会社の体制を近代的なものに上げていく→新しい体制での運営をしっかりと定着させる
- ⑤ 企業間コラボレーションとネットワークの構築

奈良経済同友会行動指針

自ら学び行動しそして自らの活動結果を踏まえて提言
活動をしていく同友会を目指す！

Look NARA deeper
& be forward-thinking!

企業活性化委員会の今後について

▶ テーマ①

体系的な企業経営についての勉強会をつくる

▶ テーマ②

ワイガヤ会の設置